

第1回パワーアップ研修会

養護教諭が行う研究と協議の進め方

～ やって み よ う ！ オ ン ラ イ ン 会 議 ～

「令和3年度第1回パワーアップ研修会」を、令和3年8月2日（月）午後3時より、オンライン形式で開催しました。参加者は57名でした。

京都市教育委員会 体育健康教育室の副主任指導主事 岩本順香先生の講義の後、ブレイクアウトルームを活用してグループごとに研究の進め方やまとめ方について協議したり、オンライン会議のメリット・デメリットなどについて交流したりしました。

< 講義 >

「養護教諭が行う研究と協議の進め方」

京都市教育委員会 体育健康教育室 副主任指導主事 岩本順香先生

○養護教諭が行う研究

- 教育基本法に「教員は絶えず研究と修養に励み」とある。養護教諭が行う研究の大きな目的は、日々私たちが行っている子どもたちへの対応やその効果などを構造化し、知見を深めるための手段であり、「よりよい実践の実現」である。
- 『私たちは養護教諭であって、研究者ではない。難しいことはしなくてもよい。』日ごろの子どもとの対応の中で「これでよいのだろうか」や「こうしたらよくなるのではないかと、ふと思ったことをメモに書き留めておくことが、研究テーマの種になる。
- 京都市養護教育研究会の発足からこれまでの歴史を振り返ると、私たちは諸先輩方が積み重ねてこられた研究の上に立って仕事をしており、一つ一つ研究を積み重ねていくことで全体として解決に向かおうとしている。「研究成果は未来の人々への贈り物」であり、その時大きな成果は得られなくても研究を継続することはその贈り物を次の世代へ届けていることになる。
- 研究方法には「質的研究」と「量的研究」があり、目的にあわせて進める。よく“科学的根拠をもって”といわれるが、必ずしも統計的処理をすることが研究ではない。何を明らかにしたいかによって選択する調査方法が異なるので、目的に応じた調査方法を選択することが大切である。



- グループ研究は研究計画を立案し、役割分担を決めて取り組むことで研究が深まり、一人の負担も軽減される。原稿作成では引用などにおけるルールを守り、自分の言いたい結論に無理やりつなげることなく、読む人の立場に立って書くことが大切である。

○オンライン協議のポイント

- 進行役を決め、1グループは3～6人程とする。
- オンラインでは空気感が分かりにくいいため、協議の際はうなずき、拍手、身振りなどを入れ、表情を豊かにして行うとよい。



<グループ交流・協議>

○オンライン協議をやってみよう

- 話しやすい雰囲気になるように、自己紹介をしてから協議の前に日ごろ困っていることなどを交流できる時間をとった。

○研究論文の書き方

- 悪い研究論文例をもとに、論文としてどこがおかしいのかをグループで協議した。正式な語句を使っているかなど、協議を通して論文を書く際に注意すべき視点を再確認できた。

<参加者からの感想>

- 講義を聴いて『立派なものを作らねば！』という肩の力が抜けたように思います。小さな積み重ねが未来への贈り物になると思って進めていきたいです。
- オンラインでの協議は不慣れだったので、まずは参加してみることに、経験してみることに価値を感じました。

